

会報 エコネットはんのう

編集・発行／はんのう市民環境会議

生物多様性について

地球上には 3,000 万種とも推定される多様な生きものがいて、お互いにつながりあい、支えあって生きています。もちろん私たち人間もそのつながりの一部です。生物多様性のたくさんの恵みが、私たち人間の「いのち」と「暮らし」を支えています。

具体的には、3つのレベルの多様性があります。

①生態系の多様性

森林、里地里山、河川、湿原などいろいろなタイプの自然があります。

②種の多様性

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生き物がいます。

③遺伝子の多様性

生き物は、同じ種であっても個体間や生息する地域により、体の形や行動などの特徴に少しずつ違いがあります。

例えば、ゲンジボタルの発光周期は、中部山岳地帯より東側では 4 秒、西側では 2 秒となっています。



自然環境調査で多くの種が確認された
天覧入り谷津田

◆生物多様性を脅かすもの

①人間の活動や開発

②里地里山などでの人間の働きかけの減少

里山では、人の手が入ることによって維持されていた環境に暮らしてきた種が絶滅の危機にさらされています。

③外来生物（詳細は、次号で取り上げます）

④地球温暖化

今後、地球温暖化が進むと、多くの種で絶滅の危機が高まると予測されています。



◆生物多様性を守るために

天覧山谷津の里づくりプロジェクトでは、たくさんの生き物が暮らす、かつての里山の原風景を復活させるため、ため池や田んぼといった水辺環境の創出、周辺の雑木林の手入れなどを行っています。

11月22日（日）にイベントを開催しますので、ぜひご参加ください。詳細は同封の別紙『第4回 里山復活祭』をご覧ください。

7月～10月の活動報告

《生活環境部会》

緑のカーテン事業を実施しました。

生活環境部会では、市役所連絡通路にニガウリとナタマメを植栽しました。特別な手入れはしませんでした。肥料とたっぷりの水だけでどんどん成長し、夏の間、葉が通路を覆って涼しくしてくれました。来年の夏は、緑のカーテンに挑戦してみませんか。

◆緑のカーテンの効果

直射日光の遮断や葉の蒸散作用によって
周辺の温度の上昇を抑えてくれる



エアコンの使用を控えても涼しく過ごせる



温室効果ガスの削減や電気代の節約につながる

緑のカーテンがある所とない所の温度差
(市役所連絡通路の場合)

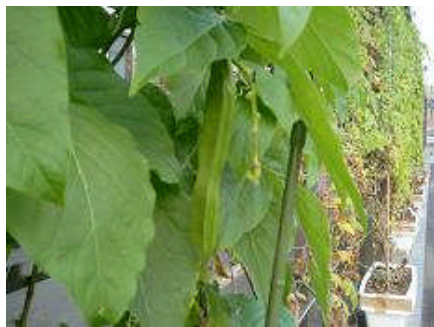
晴天時…平均3℃

曇天時…平均1.6℃

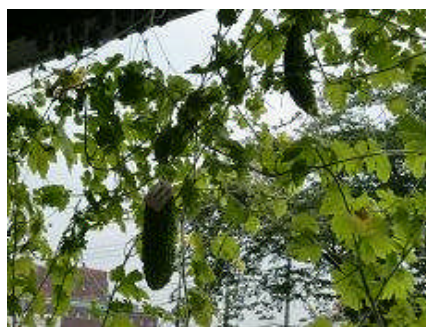


◆緑のカーテンになる植物

実が収穫できるもの…ニガウリ、ヘチマ、キュウリ、インゲン、カボチャ、ナタマメ等
においを楽しめるもの…カロライナジャスミン、ハゴロモジャスミン等



ナタマメ



ニガウリ

◆植える時期(1年草の場合)

種…3月末から4月末頃

苗…4月から5月下旬頃

来年は、ニガウリの種または苗を配布する予定です。

《生活環境部会》

■10月31日(土) まちなか清掃活動
市役所互助会と合同により、飯能駅と東飯能駅周辺でポイ捨てごみを収集しました。93名が参加し、30kgのごみが集まりました。

事業所として、(株)ニッソー冷熱製作所、(有)飯能清掃センターから参加していただきました。



《地球環境部会》

子ども家庭課「森のようちえん事業」共催
■7月11日(土)

イベント「夏の虫さがし教室」

虫や植物の観察をしたり、カブトムシやセミの抜け殻探しをしたり、危険な植物について学んだりしました。49名参加。



■7月22日と9月30日が雨天中止となったため、8月26日(水)、10月14日(水)、10月28日(水)に実施しました。

はんのう生活祭で配布するポット苗の準備や園内整備をしました。

《3部会合同会議》

■7月25日(土)、8月22日(土)、9月26日(土)、10月24日(土)

- 天覧山一帯の調査報告について
 - ・シンポジウム開催の提案
 - ・本郷地区間伐予定地内の伐採
 - ・多峯主山山頂展望確保のための伐採及びトイレ設置の有無 など

- 谷津田再生プロジェクトについて

- ・稲の食害
- ・周辺の森林整備
- ・レンゲ畑の案 など

- その他

- ・焼却施設の建替え など

《天覧山谷津の里づくりプロジェクト》

■7月20日(月・祝)

猛暑の中、21名が参加して、田んぼづくりや草刈りをしました。



■8月23日(日)、9月27日(日)

水路整備と草刈りをしました。

8月14名、9月24名参加。

■10月25日(日)は雨天のため中止



《自然環境部会》

■7月19日(日) 自然観察会 「国蝶オオムラサキを見よう」の巻

曇り空の上、樹液の出が悪く、ゴマダラチョウが1頭林の中を飛び交っているのを見ただけで、残念ながらオオムラサキは見られませんでした。22名参加。



■8月9日(日) 自然観察会 「名栗川を歩いてみよう」の巻

入間川(名栗川)を岩根橋から吾妻峡までさかのぼる予定でしたが、水量が多く危険なため、飯能河原から川下への観察に変更しました。いつも吾妻峡までで見られるものをほとんど見る事ができました。

●魚類

ウグイ、ジュズカケハゼ、ホトケドジョウ、シマドジョウ、カジカ、ギバチ

●水生昆虫

ヤゴ(コオニヤンマ、オニヤンマ)、ミズスマシ、ヒラタカワゲラ、ヘビトンボ幼虫

●その他

スジエビ、カジカガエルのオタマジャクシ

●水上で見られたもの

タマアジサイ、イワタバコ、ヤブラン、ハグロトンボ、カジカガエル



カジカ

■9月13日(日) 環境保全体験

東谷津の湿地保全(草刈りや水路整備)作業とニホンミツバチ飼育の体験を行いました。15名参加。

編集後記：

“地球のいのち、つないでいこう”

これは来年日本で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議」のスローガンです。国連は2010年を「国際生物多様性年」と定め、その会議が来年10月に名古屋市で開催されます。

地球上には多様な生態系の中で、さまざまな種類の生き物が生息していますが、人間もその一員に過ぎず、地球によって生かされている存在であるといえます。しかし、いま人間は、自らの手で自分達を危機的な状況に陥らせています。全ての命を出来る限り守り、多様な生き物との共生を図るのが「生物多様性」の基本であり、その恵みを受け続けていける活動が、いま強く求められています。

今回は、この「生物多様性の保全」をエコトピックスとして取り上げました。人と自然の共生を目指して、地球のいのちを未来につなげていきたいと思います。

(広報委員長：伊藤知夫)